

## 寒冷化と人間

松浦 純子

歴史上、世界同時に危機を迎えた時代がある。「三世紀の危機」「十四世紀の危機」そして「十七世紀の危機」と呼ばれる時代である。いずれも寒冷化が影響している。

三世紀は西ではローマ帝国が動揺・衰退する時期に入って、異民族の侵入が盛んになり、また東では四〇〇年持ちこたえていた漢が滅んで、以後三五〇年にわたり異民族が活躍する時代に入る。異民族はいずれも南下しているのです、三世紀は気温が低かったことが想像できる。この後、八世紀から十三世紀までは気候が温暖だったといわれている。

十四世紀と十七世紀にはまた気温が著しく落ち込む時期が現れ、次の危機を生むことになった。この二つの時期の地球寒冷化の原因は太陽活動の低下によるものと考えられている。まず、十四世紀のヨーロッパではペストで人口の三分の一が亡くなった。この時期の人々の生活は農業に依存していたので、土地から離れるわけにはいかず、容易にペストに感染した。農業生産が減少すると当然飢饉が発生する。一つの飢饉がまた次の飢饉を生むという悪循環が続いたことが想像される。東アジアでも、人々の不満・不安から反乱が生じ、鎌倉幕府・元・高麗が滅んだ。

十七世紀にもヨーロッパでペストが流行した。大学が閉鎖されるとニュートンは、さっさと故郷に避難してそこで思索にふけり、万有引力の発見という偉大な業績を残したといわれている。また、ウィーンのグラーベン通りには大きなペスト記念柱があるが、これはペストの終息を祝って大公が建てたものである。さらに、十七世紀前後の北ヨーロッパの芸術作品には寒冷化の痕跡を見ることが出来る。「雪中の狩人」などフランドルのブリューゲルはいくつかの雪深い様子を絵に描いた。また、ロンドンでは何回かテムズ川が凍結し、人々が凍った川の上で遊ぶ様子は絵画にも残されている。そして、この十七世紀はヨーロッパで戦争がなかった年はわずか数年だけという悲惨な時代だった。アジアでも政治の退廃、重税、飢饉の中で反乱が相次ぎ、漢民族の明が滅亡して異民族の清が成立した。

気候変動について気になることは、最近、世界各地で暴動が多発し、身近なところでも物騒な事件が頻発している。寒冷化同様に現在の温暖化も、人間の理性を奪い、苛立ちを煽って暴走させているのであろうか。